

モントリオール・プロセスと国際熱帯木材機関 (ITTO)、欧州森林保護閣僚会議 (FE)、及び国連食糧 農業機関 (FAO) の世界森林資源評価による共同声明



1992年にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された国連環境開発会議 (UNCED) 以降の20年間、世界中の森林は引き続き森林減少や林産物とサービスに対する社会的需要の増加といった様々な圧力にさらされ続けてきました。

同時に、気候変動の緩和や生物多様性保全など、地球環境問題の解決に森林が大きく貢献するとの認識も高まってきています。2011年の国際森林年の間に

再確認されたように、森林と持続可能な森林経営は、持続可能な開発、貧困撲滅、そして国際的に合意された開発目標達成のために大きく貢献できるものです。

UNCEDの「全ての種類の森林の経営、保全及び持続可能な開発に関する世界的合意のための法的拘束力を有さない権威ある原則声明」、いわゆる「森林原則声明」は、森林の状態と動向に関する観測と報告を向上させる重要な動機付けとなっています。

UNCED以降、モントリオール・プロセスとITTO、FE、及びFAOの世界森林資源評価は、森林に関連する環境・社会・経済の側面に

についての報告のため、洗練された基準と指標の枠組みをそれぞれ活用してきました。

これら4つの組織は、国連森林フォーラム (UNFF) が次のように規定する持続可能な森林経営の推進のために共同で働くことによって顕著な進展を続けています。

「持続可能な森林経営とは、動的で進化する概念であり、現在と将来の世代の便益のために、全ての種類の森林の経済的・社会的・環境的価値を維持し高めることを目的とするものである」

世界の森林とそこからのサービスの維持について

持続可能な森林経営について、国際的に確認されている7つのテーマ要素(2004年のUNFFにて)である、

1. 森林資源の範囲
2. 生物多様性
3. 森林の健全性と活力
4. 森林資源の生産機能
5. 森林資源の保護機能
6. 社会・経済的機能
7. 法的、政策的、組織的枠組み

は、モニタリングと報告の基となるもので、さらに、森林の状態と持続可能な森林経営に関する課題を明らかにし、その進展を実例で説明するための基盤です。

私たちの経験と成果は、環境的変化の観測と持続可能な開発に関する報告に関心を持つ他の組織やプロセスにも有益なものであると確信しています。

私たちは、モニタリング事項や関連する報告の負担が増加することを避けるために、他のプロセスや組織と協力することの意義を認識しています。

森林の状態と動向の観測・報告に関する私たちの知見と経験は、気候変動やバイオエネルギー、水資源といった提起される問題に関して、意義があり有用であると認識しています。

私たちは、森林関連データの収集と報告をさらに向上させるため、森林関連データ、その評価、又は専門的知見に関心のある他の組織と協力することを望んでいます。提起される問題に対処し、持続可能な経営が行われている森林が世界の持続可能な開発に最大限の永続的な貢献をできるように担保するために、これが最良の方法と考えます。

